聖成吉思汗の家譜 (4)

山本守譯

〔太宗〕 その後第三年となつて丑の年(己丑)烏格德依汗四十三歳克嚕倫の Hütege arolan (元史奎騰阿喇勒元史は四部備要本に據る)で大位に卽いた。十三年になつて丑(辛丑)の年五十歳で Ötegü holan (元史謂特古呼蘭山) に崩じた汗は未年(丁未、一一八七)の生れである。

註 蒙古源流に「歳次戊子年四十二歳卽汗位 (中略) 逾六年歳次癸巳年四十七歳歿」とあるは誤であるが本文に五十歳で崩じたとするのも亦誤である。

〔定宗〕 その後六年(丙午) Hülük (庫玉(裕)克)汗四十二歳 ürmügetü (元史昂吉蘇托里) で大位に卽く。其次年未年(丁未)四十三歳で Samsihi (元史杭錫雅爾) に崩じた。汗は丑年の生れである。

註 蒙古源流に「乙丑年降生歳次癸巳年二十九歳卽汗位。在位六月是年卽歿」とあるは誤にして元史によれば丙寅年生れであり在位三年にして戊申年四十三歳で崩じて居る。

〔憲宗〕 其後五年亥年(辛亥) münngge (莽賚扣、一作蒙克) 四十五歳克嚕倫の Hütege arolan (前出)で五月初三に大位に卽く。九年經て五十四歳未(己未)年 Čing jambu (元史帝崩于釣魚山)なる城で崩じた。汗は卯年の生れである。

註 蒙古源流に「蒙克係丁卯年降生。歳次壬子年四十六歳卽位在位八年歳次己未歿享年五十四歳」とあり。然れども元史によれば戊辰の出生。在位九年五十二歳崩と記す。尙蒙古源流では庫裕克汗の次に其弟「庫騰」なる者が在位せる事を記す。

〔世祖〕 其後六年申歳 Situ Sečin hagan—世祖徹辰汗—四十歳の時「上都」の地に大位に卽く。三十五年經つて午年(甲午)八十一歳正月二十二日大都に崩じた。汗は巳年の生れであつた。

註 蒙古源流に「呼必賚徹辰汗乙亥年降生。歳次庚申年四十六

歳卽位。中略在位三十六年歳次庚申享年八十二歳歿」と記す然し元史によれば乙亥年出生。在位三十五年壽八十歳と記す。

〔成宗〕 其後同じ午の歳に üjeitü hagan（特穆爾殿本作謂勒哲衣）三十歳四月初十 Sihir 湖で大位に卽く。十四年になつて四十四歳時未歳正月初八大都にて崩じた。汗は丑年の生れであつた。

註 蒙古源流に「汗係乙丑年降生。歳次甲午年三十歳卽汗位中略歳次丁未年四十三歳歿」と記す。元史によれば至元二年乙丑生れ同じく甲午卽位。在位十三年壽四十二で崩じて居る。

〔武宗〕 其後同未年 Haisang hülük hagan（海桑、殿本作庫魯克）二十七歳で大位に卽く。第五年亥年大都にて崩ず。汗は巳年の生れであつた。

註 蒙古源流に「海桑辛巳年生。歳次戊申年二十八歳卽位。中略在位四年歳次辛亥年三十一歳歿」と見え元史によれば至元十八年（辛巳）生れ、在位五年壽三十一と記す。

〔仁宗〕 其後同亥年 Ayoor balbat buyantu hagan（阿裕爾巴里巴特喇汗殿版作布延圖汗）三十七歳で大位に卽く十年經て申年四十七歳大都に崩ず汗は亥年の生れであらうか。

註 蒙古源流「汗乙酉年生歳次壬子年二十八歳卽位中略在位九年歳次庚申年三十六歳歿」と記す。元史によれば至元二十二年（乙酉）の生れ在位十年壽三十六とある。

〔英宗〕 其後同年申歳 Sitibala gegegen hagan（碩廸巴拉、殿本作格根汗）十八歳大都に於て大位に卽く。四年經て二十一歳の時亥年上都の南で馬の胸に崩じた。汗は子年の生れであらうか。

註 蒙古源流に「汗癸卯年生歳次辛酉年十九歳卽位。中略在位三年。歳次癸亥。年二十一歳歿」とあり、元史には大德七年（癸卯）生れ在位三年二十一歳で弑せらるとある。

〔泰定帝〕 其後同年亥年伊遜特穆爾汗三十歳 Hütege arolan（前出）で大位に卽く。六年經て辰年三十歳の上に（?）八月初六上都に崩じた。汗は巳年の生れであらうか

註 蒙古源流に「汗癸巳年生。歳次甲子、年三十二歳卽位。中略在位五年歳次戊辰三十六歳歿」とあり元史には至元十三年（丙子）の生れ三十六歳にて崩ず。

〔天順帝〕 其後同年辰年 Asočibao mün jayagatu hagan（元史阿速吉八）三十五歳で八月十二日大位に卽く。

註 蒙古源流に「庫色勒汗乙巳年生。歳次己巳年二十五歳卽位在位二十日卽於是年歿」とあるものに當り、元史には本紀なし。泰帝帝の本紀に致和元年九月に倒剌沙に推されて帝位に卽ける事見ゆ。

〔明宗〕 次年巳年 Hotoktu hagan（和錫拉汗）東邊より聲名全うして來つて正月十九日に三十歳の時大位に卽

く寶玉の印を奪つて Čangsang—丞相にして倒剌沙をさすか—を殺さしめて esergüičin(?)は(帝を)迎へしめて遣はすに、見て取つて行つて Hotoktu hagan は Čičk tu Nagur (元史には「和寧の北に於て」とあり)の地に四月初三に大位に卽く。同年八月初六に崩じた。

註 蒙古源流に「和錫拉汗庚子年生。歲次己巳年二十歲卽位。在位四十日卽於是年歿」と見ゆ。元史によれば帝の卽位は天曆二年(己巳)正月にあり、南下の途に八月庚寅忽察都の地に崩ず。

〔文宗〕 其後同年八月十日に Tüb temür jayagatu hagan (托克特穆爾汗殿版作濟雅噶圖汗) 大位に卽く。五年經て壬申年三十五歲の時大都にて崩ぜり。

註 蒙古源流には「汗甲辰年生。歲次己巳年二十六歲卽位。中略在位四年歲次壬寅二十九歲歿」元史によれば帝先に政和元年九月十三日に卽位し天曆二年正月一度兄明宗に位を讓り同年八月己亥再び帝位に卽いたのである。

〔寧宗〕 壬申年同月初五 Rinčinbala ičamal hagan(額琳沁巴勒) 大位に卽く同月二十五日大都に崩ず。

註 蒙古源流には「汗丙寅年生。歲次壬申年七歲卽位在位一月歿」と見え元史によれば「至順三年十月初四日に卽位し十一月壬辰崩年七歲」と記す。

〔順帝〕 其後同じく戊申年大都に Uhagan tu hagan (托歡特穆爾烏哈噶圖汗)生れて大位に卽く。

註 蒙古源流には「汗戊午年生歲次癸酉年十六歲卽位」と記す。元史によれば帝至順四年六月十四歲上都に卽位す。帝延祐七年の生れである。

この時 Jürcit ebugen の Jüü と名附くる子供を生んだ時家から虹が引いた。(蒙古源流では漢人朱姓之子朱葛とす)この兆を拉哈 Ibahoo (伊拉呼)と云ふ二人が知つて(蒙古源流は拉哈之子伊拉呼とす)汗に奏上するのに「この子汗に善ければ汝益あるであらう。惡ければ害あるであらう。幼きより無きものにせよ」と云ふに汗この二人の言を聞き入れなかつたので Laha, Ibahoo 二人曰はく「嗟々彼を殺さなかつた。今後首領を量る勿れ」と云つた。この子が成長した後東省の民を鎭壓せしめて、西省の民を Toktoga (托克托噶) Hara jüng (哈哩常)二人で治めて居た。其後 Yüge (Jüge 卽ち朱噶の誤り) Buha (布哈)兄弟二人で托克托噶、哈哩常二人を汗に誹謗して「汝のこの二人の長官倉を押へて善いのを自ら食ふ。殘りの惡いのを汗に持つて來て與へる」と奏上するに汗 yüge に手紙を送りて托克托噶哈哩常を連れて來いと遣はした。yüge 行きて行き着かず途中より歸り來つて「來

なかつた」と報告した。斯くして再び遣はした。さて曩の言葉を話して來る時汗怒つて托克托噶・哈哩常を長官から歸して yaru(?)全國を yüge 布哈二人に治めしめた。それより yüge 布哈等稅戶を收める爲に行きて三年になるまで來らず汗勅あつて「yüge の腿甚だ重くなれり。yüge が來た時門を開けてやるな」と門番に命令した。この日汗一つの夢を見た。數多の兵敵となつて來つて城を圍んで居る。この敵から(を)恐れて城の中に逃げ廻つてる中に、全く出でる隙を得ない。見て居ると西北に逃れて行くに一つの窟窿が見えて居た。この窟によつて汗位を棄て全國を拋つて出でんとする夢を見た。「我この夢は善いであらうか。惡いであらうか、と漢の明るい sančin(卜者の意か?)に解かしむれば、この sančin 汗の夢を解いて「汗よ汗の地位を失ふ兆であらう」と解つた。後蒙古の Totaga (Toktaga の誤?)丞相大變善く研究して解いたと云ふ。この夢の兆により西方に行つて見れば果して窟ある故に「我がこの夢は實であらう」と懼れた。その後yüge 布哈二人で萬車に財を載せてあり、三千の車には甲をつけた兵を載せて來た。門番は門を開けてやらなかつたので、門番に澤山の貴い財帛を與へて(城に)入つて、兵を明るみに出した。速に到つて汗の金殿を圍まんと云ふに、汗知つて三十萬蒙古人を棄てゝ、さきに見た窟により、皇后子供を連れて、少なき團體十萬蒙古人を率ゐて出た。彼出づ關門に哈薩爾の子孫 Togo bagatur の子 Tomolahu bagatur 子の Hači hülük を出して六十の旗ある友を導いて來て云ふのに、「名を折つて屍を折れと云ふ事がある」と云つて、漢人の追兵を迎へて殺し合つて死んだ。汗の後嗣に哈薩爾の後嗣一利益を送れりと云ふ。それより明視の關門によつて出で、Baras 城(虎)を取つて住まつた。漢兵等 Hirsa 城(狐)を取つて住まつた。そこに烏哈噶圖汗の子 Bülikru が解つて? 大吹雪、雨を降らしめて漢兵等を、騙馬等を終るまで殺させた。殘つた兵等の歸る道に、蒙古の兵追ひて、Čagan herem.(白い壁の意 萬里長城)に到るまで砍つたと云ふ。さて散つて逃去した兵等は、jouhan(竈?)山谷を燒いて jouhan に臥して死んだと云ふ。漢兵 hiritu(?)出た。「狐の尾纛纓となつたと云ふ乎。色々と寶により、質朴な美麗さによつて蔽れたる我大都よ。昔諸汗の住みたる避暑地上都の沙喇塔拉(沙喇は黃い塔拉は原の意)よ。涼しい美しき heibeng(海綳?)上都よ、暖かい美しい我大都よ。清

晨明朝、高きに出づれば、美しい煙靄あり。烏哈噶圖汗の前に拉哈 Ibahou 二人言つてありしぞ。曉知して放つて遣はせり。惜しむべき大都を悟らず、生れたる官人國を見守り合つた。泣けども遺亡したり我。故郷に遺したる澤山の二歳牛の如くなりたり我。色々と蔽れたる八面の白い塔よ。大國の名と政治を取つて坐したる、九寶によつて蔽れたる我大都城よ。四十萬蒙古を脅し、國を取つて座せり、四門ある正方の我大都城。經典を盛ならしめて行く中に、只 Šantu(?)貪つて惜しむべき大都を失ひたる名や政治。hanagi yanagi(?)蒙古國を哨探 haiha hurokči(?)惜しむべき我大都。冬を過ごす我城。夏の避暑地 heibüng（源流には海綳と記せども意不明）上都。美しき我沙喇搭拉。拉哈 Ibahou 二人の言を聞き入れなかつた我罪。福もて建てたる竹の宮殿に呼必勒汗徹辰汗避暑せられたり。heibüng 上都を卷いて取られた。漢國に淫亂の惡名を烏哈噶圖汗に放てり。あらゆるものを以て設立したる玉大都を混亂させて冬籠せり。惜しむべき大都を凡て取られたり、漢國に混亂の惡名を烏哈噶圖汗に放てり。各種のものもて建てたる尊大都を惜迷して夏を過したり。heibeng 上都を誤つて取られた。漢國に惜迷の惡名を烏哈噶圖汗に放てり。汗主の運用した大名と國を、祥瑞ある徹辰汗の建てたる惜しむべき大都を、全國の神牌支柱尊い城を全く取られた。漢國に惜しむべき大都を天の子 Činggis hagan—成吉思汗—の金族を、普き佛の化身徹辰汗の皇殿を、全菩薩の化身烏哈噶圖汗、天の命によりて失へり。汗玉璽を懷いて出た。全敵人の中より混亂に紛れて出した。Buha temür Čingsang となり中より君主の金族ある汗位に止まること萬世なれと願ひしに突然取られた。惜しむべき大都を家より出づる時、尊經典を遺して來た。この時 Gegen biiiktu botisong 等割當てよ。後に放浪し來て定めよう」〔と言つた〕

〔汗は〕成吉思汗の一族に〔出で〕その後二十九歳に〔更に〕四年經つて戊年 Ing Čang pu（應昌府）と名づくる城に崩じた。忽必烈徹辰汗が大都に住つてより以來烏哈噶圖汗に至るまで百五十年と六ケ月住まつて城を取られたと云ふ。この國を取られた時に烏哈噶圖汗の Hong-giri haton（洪吉喇特）は三月の身重であつた。この皇后は botong の中に入つて留まつた。この botong を漢人は缸と呼ぶ。この皇后を朱洪武皇帝取りて、皇帝は位に卽つた。この皇后思ふに「七月生れるならば敵人の子

と云つて殺し十月になつて生れるならば害さないであらう。我天父慈んで三ケ月になして賜へ」とを祈つた。天憐んで十三ケ月になつて男の子が生れた。洪武皇帝の漢皇后も男の子を生んだ。洪武皇帝の夢に二龍の相鬪して、東龍が西龍に打勝つを夢見た。「我この夢は吉なりや凶なりや」と卜者に見せしめた。この卜者は「二龍は帝の二子である。西龍と云ふは漢皇后の子であらう。東龍と云ふは蒙古哈屯の子であらうか。帝位に坐す運命あるであらう」と。卜者の言を洪武帝省みず「子と雖も母は敵人の皇后である。それより生れたる子汗位に卽かは惡からん」と云つて宮城より出して長城の外に Huhe hota を築いてこゝに住まはせた。かくて洪武帝大位に卽いて三十一年になりて死した。

漢國の汗の諸汗の第一は洪武汗であらうか。その子建文汗、汗の位に卽いて四年になつた後洪吉喇特哈屯の子永樂汗、自己の少なき友山陽の六千 Üčiyet 國(我着)水邊三萬女眞國 hara herem (黑壁、長城の意)の漢人國を取つて兵を治めて到つて漢の洪武帝の子建文帝を捕へて頸に銀印を捺して放ち棄てた。次で烏哈噶圖汗の子永樂汗汗位に卽つた。—立命館文學第二卷十號 參照—我有道の汗の子孫位に卽けりとて、永樂帝「大明」の名を推戴せりと云ふ。力を與へたりとて、山陽の六千 Üčiyet 國に三百 taitu(?)を賜ふた。女眞國に一千六百 taitu(?)を賜ふたと云ふ。永樂汗三十二歲で崩じた。洪熙汗一年位に坐す。宣德汗十年位にあり。正統帝十四年在位した景泰汗十五年在位す。天順帝八年在位しし成化汗二十三年在位した。弘治汗十八年在位正德汗十六年在位嘉靖帝四十六年在位隆慶汗六年在位。萬曆汗四十六年在位泰昌汗一ケ月在位大明 Čou Ting—(崇禎か?)—天啓汗二十六年在位。洪武帝より以來天啓汗に到るまで二百五十七年在位した。—崇禎の記事脫落せるは天啓汗と混同せる爲であらうか。—

註 明代世系中にも誤が有るが其儘にして置く。

× × ×

本稿に付せられてゐた山本君からの通信によると、此の飜譯は實は未だ續く筈であるのだが、是段以後は明の時代の記事に屬するものであり、その飜譯に當つては相當愼重な勉强が必要であると思ふので、これから充分要意をとゝのへて又の機會に讀者に見へ度いと言つて來てある。編輯者として一言つけ加へておく。(編輯者)